

年頭所感

膜学の展開と深化



日本膜学会会長
東京工業大学 山口猛央

はじめに

日本膜学会の皆様、あけましておめでとうございます。本年もどうぞ、よろしく願い申し上げます。

日本膜学会は2020年4月から一般社団法人日本膜学会に移行し、2023年7月には、世界最大の膜に関する国際会議であるICOM2023を主催しました。皆様のおかげでICOM2023では、1137名の参加者を迎え、1109件の発表がありました。日本の膜学の實力を示せたと思います。学会として重要な節目を過ごし、これからのさらなる発展が期待されます。

膜学の展開と深化

世界的な水不足、エネルギー問題、後期高齢化社会のための医療技術など、膜は必要不可欠な技術であり、膜の応用用途は広がり、世界的に膜研究者数が伸びています。ICOM2023でも新たな応用セッションが人気でした。また、緻密な生体膜の機構解明や分子レベルでの膜現象の解明、新しい膜やプロセスの開発、計算による膜設計など、膜学はどんどん深化しています。膜学の展開と深化、さらに進めましょう。

国際化

世界の膜学会は、日本膜学会が所属するアジア・オセアニア地区のAMS、欧州のEMS、北米のNAMSの大きく3つに分かれますが、それらのアンブレラ学会であるWorld Association of Membrane Societies (WA-MS) (<https://www.wa-ms.org>) が2017年8月に発足しました。膜のイベント情報だけでなく、膜に関する教育コース動画を準備しています。是非、覗いてみてください。また、最近では産学連携にも力を入れており、どのようなサービスが世界の膜技術の発展に繋がるか議論しています。企業からWA-MS

への要望などあれば、是非、教えてください。

会員サービス

ICOM2023に参加した方々を見渡すと、日本国内にも多くの膜研究者がおられます。膜研究者のネットワークを広げましょう。膜学会年会は通常の発表に加えトピック的なシンポジウムを実施し、膜研究を広く展開する機会です。膜シンポジウムは討論を重視し、人工膜、生体膜の隔てなく、レビュー発表も交えて、膜学をさらに深める場です。両方とも、学生のポスター発表・表彰も合わせ、活発な議論ができる場です。ICOM2023で受けた刺激をモチベーションに、多くの皆様に発表、議論頂き、膜学をさらに広げ、深めて頂ければ幸いです。

膜誌では、新しい企画や、持ち込みの総説、若手研究者からの総説も積極的に出版します。膜学の深化や新しい展開を学会員の皆様に迅速に届けます。

産学連携

膜に関する産業では日本が世界をリードしています。産業部門委員会の活動を支援し、産業界で必要となる膜の基礎講座やシンポジウムを積極的に実施し、新しい応用に関するテーマも積極的に扱います。

おわりに

新型コロナの影響も収まり、学会を対面で実施できるようになりました。また、オンラインでの情報共有も一般的になりました。学会活動は、容易に海外と連携できる時代です。世界にネットワークがある日本膜学会として、膜学の展開と深化を目指し、さらなる発展の年になるよう、皆様からのより一層のご支援、ご鞭撻をお願い申し上げます。